

Volt 876 ハードウェアマニュアル



このマニュアルには、Volt 876 のハードウェア操作と接続に関する詳細な手順が記載されています。

コンテンツ

クイックスタート	6
Volt 876 フロントパネルの説明(左側面).....	8
Volt 876 フロントパネルの説明(右側面).....	13
Volt 876 背面パネルの説明(右側).....	18
Volt 876 背面パネルの説明(左側).....	20
モード.....	24
複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張.....	26
Volt 876 のトラブルシューティング.....	29
Volt 876 仕様.....	31
Volt 876 USB ドライバーチャンネル	35
重要な安全上の注意.....	38

バンド全体に伝説のアナログサウンドを与える

伝説の Apollo を開発した同じチームによって開発された Volt 876 USB レコーディングスタジオは、本格的な音楽プロデューサーのための次世代 32 ビット/192kHz オーディオインターフェースです。8 基のオンボードビンテージプリアンプとクラシックな 1176 スタイルのコンプレッサーをフロントパネルに搭載し、接続したすべてのマイクと楽器に迫力のあるアナログスタジオサウンドを提供します。

Volt 876 の統合レコーディングエクスペリエンスには、インターフェース設定のフルリコール、iPhone または iPad でのモバイルレコーディング、UAD プラグインとインストゥルメント、そしてスマートな AI 搭載レコーディングツールを備えた LUNA デジタルオーディオワークステーションが含まれます。

Bill Putnam, Jr.からのメッセージ

音楽制作体験の一部として Volt 876 をお選びいただき、ありがとうございます。新しい機材には時間と費用の投資が不可欠であることは承知しており、その投資に見合う価値を提供することが私たちの目標です。Universal Audio のオーディオインターフェースシリーズは、1950 年代に私の父によって設立されて以来、アナログとデジタル両方のオーディオ技術の最高のものを提供するという現在のビジョンに至るまで、UA の長い歴史の中で貫かれてきた理念の好例です。

Volt 876 は、現代のクリエイターのために伝説的なサウンドと柔軟性を備え、この伝統を受け継いでいます。8 基のビンテージマイクプリアンプ、アナログ 76 タイプのコンプレッション、そしてプロフェッショナルな 32 ビットコンバージョンを備えた Volt 876 は、フルバンドから大規模なプロダクションまで、あらゆるニーズに対応し、感動的なトーンと職人技で仕上げられています。

また、セッションリコール、トークバック付きのキューミックス、そして数々の受賞歴を誇る UAD プラグインとインストゥルメントなど、強力なクリエイティブツールもご利用いただけます。Volt 876 は、LUNA レコーディングソフトウェアと併用することで、オートゲイン、ボイスコントロール、無制限のトラック数といった機能により、音楽制作に集中できます。

UA は、テクノロジーは創造のプロセスを支援するものであり、障壁となるべきではないという考えを掲げています。これは、私の父がオーディオ機器を開発する際に体現したまさにその理想です。Volt 876 は、驚異的な忠実度と揺るぎない信頼性を長年にわたって提供することで、お客様のクリエイティブワークフローに深く根付くと確信しています。

ウェブサイト www.uaudio.com またはソーシャルメディアチャンネルからお気軽にお問い合わせく

ださい。

皆様からのご連絡をお待ちしております。Universal Audio をお選びいただき、改めて感謝申し上げます。

Bill Putnam, Jr

テクニカルオーバービュー

Volt 876 は、24 入力 28 出力、32 ビット、192kHz の USB 2.0 オーディオインターフェースです。Volt 876 は、クラス最高クラスのデジタルコントロールプリアンプを 8 基搭載し、個別に有効化可能なヴィンテージモード、76 タイプのコンプレッサー、そしてアシスティブオートゲイン機能を備えています。さらに、Volt 876 は最大 16 チャンネルの ADAT デジタル入出力、またはステレオ S/PDIF デジタル入出力を搭載しています。

高度な接続オプションにより、最大 3 台の Volt 876 を接続でき、最大 24 台のアナログプリアンプを構築できます。スタジオでの利便性を考慮し、プリアンプの設定と Volt の機能には、フロントパネルまたは UAD Console ソフトウェアからボタン操作で簡単にアクセスできます。デュアルステレオヘッドフォン出力は追加のモニタリングに使用でき、8 つのアナログ出力は柔軟なキューモニタリングや代替モニターとして設定できます。

主な特長

- ・24 入力×28 出力 USB 2.0 クラスコンプライアントオーディオインターフェースです。
(Windows で最大限の機能を発揮するにはドライバーが必要です。UA Connect アプリからダウンロードできます)
- ・8 基のデジタルコントロールアナログプリアンプ (個別に選択可能なヴィンテージモード、76 タイプのコンプレッサー、アシスティブ・オートゲイン、48V ファンタム電源、極性反転機能搭載) を搭載しています。
- ・最大 16 チャンネルの ADAT または 2 チャンネルの S/PDIF デジタルオーディオ入出力を装備しています。
- ・個別にボリュームコントロールできるデュアルヘッドフォン出力を内蔵しています。
- ・A/D/A 変換は 32 ビット、192kHz です。
- ・最大 3 台の Volt 876 をリンクして 24 チャンネルのアナログレコーディングが可能です。
- ・厳選されたネイティブ UAD プラグインコレクションを同梱しています。
- ・異なるステレオスピーカーでもモニタリング可能な ALT モニタリングを搭載しています。

- ・UAD Console ソフトウェアからすべてのハードウェア機能(ヘッドフォンボリュームと電源スイッチを除く)をリモートコントロールが可能です。
- ・UAD Console でミキサー設定全体を保存・呼び出しが可能です。

システム要件

Mac および PC

- ・USB 2.0 以上のポート
- ・USB ケーブル(付属)
- ・Intel、AMD、または Apple Silicon プロセッサ
- ・Windows 10 64 ビット版以降
- ・macOS Monterey 12 以降
- ・ソフトウェアダウンロードのためのインターネット接続

iPad および iPhone

- ・iPadOS / iOS 15 以降

クイックスタート

Volt 876 ドキュメントについて

ハードウェアのセットアップと説明については、このマニュアルをご利用ください。

ソフトウェアの設定と説明については、UAD Console for Volt 876 マニュアルをご覧ください。

Volt を UA Connect に登録し、付属ソフトウェアを受け取る方法については、「Volt インターフェースのセットアップ方法」をご覧ください。

はじめに

セットアップを開始するには、以下の手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップ

- 1.Volt 876 を平らな面(付属の脚を取り付けた状態)に置くか、標準の 19 インチラック(付属のラックイヤーを使用)にマウントしてください。
- 2.Volt 876 をコンピューターの USB 2.0 以上の USB ポートに接続してください。Volt 876 には、USB-A アダプターが付属した USB-C - USB-C ケーブルが付属しており、柔軟な接続が可能です。
- 3.付属の IEC ケーブルを使用して、Volt 876 を電源コンセントに接続してください(Volt 876 はバスパワー駆動できません)。

ソフトウェアのインストール

- 1.uaudio.com/volt/start から UA Connect アプリをダウンロードしてインストールしてください。
- 2.UA Connect で Volt ハードウェアを登録してください。
- 3.UA Connect から UAD Console アプリをダウンロードしてインストールしてください。

注:Windows システムで最高のパフォーマンスを得るには、UA Connect 経由で Volt 876 ドライバーをインストールしてください。Mac および iOS/iPad ではドライバーは必要ありません。

ハードウェアの取り付け

Volt 876 には、インターフェースをデスクトップなどの平らな面に設置する際に本体底面に取り付けることができるゴム足が付属しています。標準の 19 インチラックに設置する場合は、本体前面に取り付け可能な取り付けブラケットが付属しています。

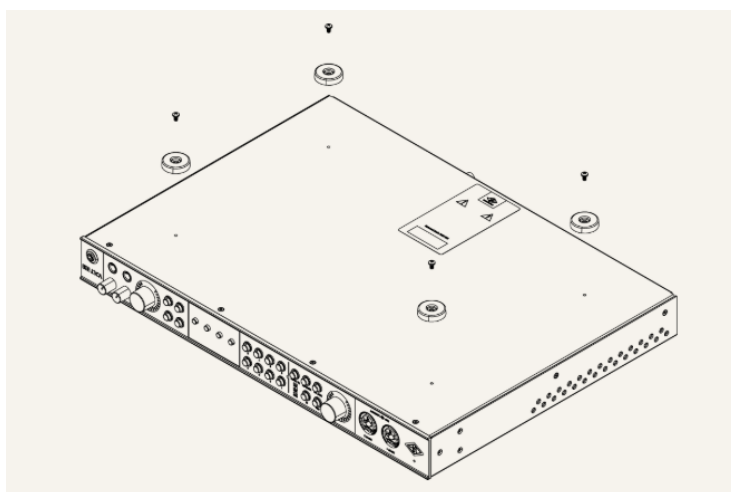
注:ラックに取り付ける場合は、Volt 876 本体にゴム足は取り付けないでください。ラックマウントブ

ラケットのみを取り付けてください。

ゴム足の取り付け

ゴム足は、本体をデスクトップなどの平らな面に設置する際に使用できます。

- 1.Volt ハードウェアパッケージには、付属のゴム足とネジが同梱されています。
- 2.図に示すように、Volt 876 本体底面にゴム足を取り付けます。

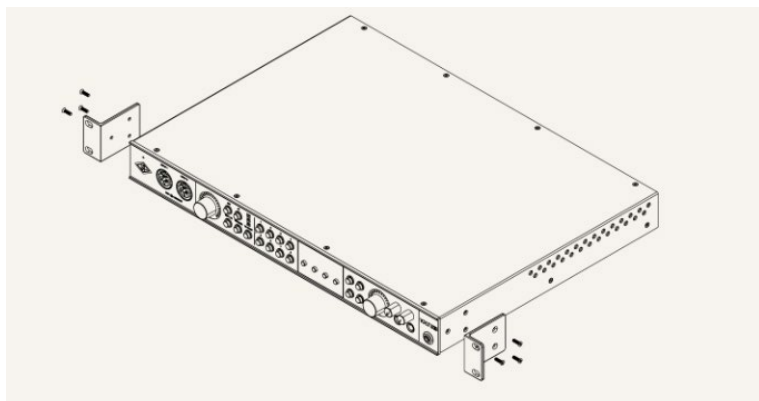


ラックマウントブラケットの取り付け

ラックマウントブラケットを使用すると、Volt 876 を標準の 19 インチラックに取り付けることができます。ラックマウントネジは付属していません。

Volt ハードウェアパッケージに、付属のラックマウントイヤーとネジが同梱されています。

図に示すように、Volt 876 ハードウェアユニットの左右の側面にネジを取り付けます。



オーディオ接続

- XLR/TRS コンボ入力 1～2

ギターやベースなどの Hi-Z 楽器は、本体前面のコンボコネクタ入力 1～2 に直接接続してください。マイクや Hi-Z 以外の音源も接続できます。

- XLR/TRS コンボ入力 3～8

マイクやキーボードなどの機器は、アナログ入力 3～8 に接続してください。各コンボコネクタには、XLR プラグまたは 1/4 インチ TS/TRS プラグを接続できます。

- モニター出力 1～2

モニタースピーカーは、本体背面のモニター出力 1～2 に接続してください。

- ヘッドホン出力

ヘッドホンはヘッドホン出力 1 または 2 に接続してください。

- オプティカル 入出力

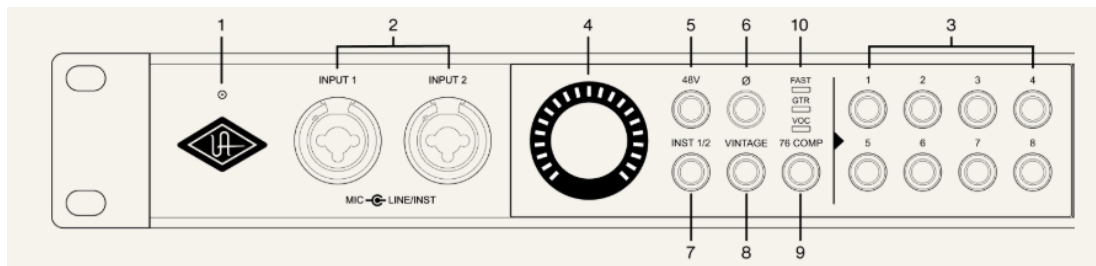
ADAT または S/PDIF デジタルオーディオ機器を接続してください。

複数の Volt 876 ユニットによる ADAT 拡張

ADAT 拡張モードを使用することで、システムを 16 または 24 のアナログブリアンプチャンネルに拡張できます。ADAT 拡張モードでは、2 台または 3 台の Volt 876 インターフェースを使用して、UAD コンソールで 16 または 24 のアナログ入力チャンネル(44.1 kHz/48 kHz サンプルレート)をルーティングできます。このシナリオでは、1 台の Volt 876 を USB インターフェースとして設定し、残りの Volt 876 を UAD コンソール設定で ADAT エクスパンダーユニットとして設定します。

詳細については、[複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張](#)を参照してください。

Volt 876 フロントパネルの説明（左側面）



(1) トークバックマイク

内蔵トークバックマイクはこの穴の中にあります。トークバック機能は UAD コンソールソフトウェアで設定でき、フロントパネルの DIM/TALK ボタン(14)または UAD コンソールで起動できます。

注意: トークバックマイクは非常に敏感です。機器の損傷を防ぐため、マイク穴に異物を挿入したり、マイク穴に圧縮空気を吹き込んだり、掃除機をかけたりしないでください。

(2) XLR/TRS コンボ入力 1~2

マイク、Hi-Z 楽器、またはラインソースをここに接続します。コンボ入力ジャックは XLR と 1/4 インチ (6.35 mm) プラグに対応しています。

マイクは通常 XLR コネクタに接続し、楽器またはラインレベルの信号は通常 1/4 インチ (6.35 mm) TS (チップスリーブ) または TRS (チップリングスリーブ) プラグに接続します。

プリアンプのゲインレンジと入力インピーダンスは、プラグが XLR か 1/4 インチか、および INST ボタンの状態に基づいて、マイク、ライン、楽器の信号に合わせて自動的に調整されます。

INST ボタン(7)を押すと、ライン入力のインピーダンスとゲインレンジが切り替わり、エレキギターやベースなどの Hi-Z 楽器に対応します。

ヒント: Vintage Preamp と 76 Compressor は、すべてのマイク、ライン、楽器入力で使用できます。

バランス接続とアンバランス接続

Volt 876 のすべてのライン入力は、TRS ケーブルまたは XLR ケーブルでバランス機器に接続するとバランス接続になります。TS ケーブルで接続する場合、またはアンバランス機器に接続する場合は、すべてのライン入力はアンバランス接続になります。

バランス接続の音源で最良の結果を得るには、TRS (バランス) オーディオケーブルを使用してください。バランス接続の機器は、3 芯線 (TRS または XLR コネクタ経由) を使用して干渉や電気ノイズを低減し、長いケーブルでも優れた音質を実現します。エレキギターやベース、アンバランスキーボードなど、バランス接続ではない楽器には、TS (アンバランス) ケーブルを使用してください。また、電気干渉ノイズが問題にならない短い入力ケーブルにも TS 接続には適しています。

バランス接続とアンバランス接続については、[こちら](#)の動画でご確認いただけます。

(3) チャンネルセレクト 1-8

チャンネルセレクトボタンを押すと、そのチャンネルがフォーカスされ、その入力の設定を調整できます。チャンネルが選択されると、ボタンがオレンジ色に点灯し、ゲイン、インストゥルメント(チャンネル 1-2 のみ)、48V ファンタム電源、極性、76 タイプのコンプレッサー、ビンテージプリアンプのコントロールは、選択されたチャンネルにのみ適用されます。ダイレクトモニタリング設定も、選択されたチャンネルにのみ適用されます。

2 つのチャンネルをステレオ接続するには、両方のボタンが点灯するまで押し続けます。2 つのチャンネルのリンクを解除するには、両方のボタンが消灯するまで押し続けます。

リンクできるのは奇数チャンネルと偶数チャンネルのペアのみです(例えば、3 と 4 はリンクできますが、4 と 5 はリンクできません)。

(4) ゲインノブ

このノブは、選択した入力または入力ペアに接続されたマイク、楽器、またはラインレベル機器のプリアンプゲインを調整します。

最適なゲインを得るには、接続されたソースをモニタリングしながらノブを回して入力信号レベルを調整し、入力メーター(10)に信号が表示され、赤色に点灯しないようにします。入力信号が 0dBFS (デジタルクリッピング)に近づくと、赤色の入力 LED が点灯します。

ヒント

デジタルクリッピングは、入力が過負荷になったときに発生します。デジタルクリッピングが発生すると、波形の頂点が角張ってしまい、不快な歪みが生じることがあります。デジタルクリッピングはクリエイティブな用途にも活用できますが、通常は避けるべきです。デジタルクリッピングを防ぐには、緑色と黄色のメーターのみが点灯し、赤色の LED が点灯しないようにゲインを調整します。UAD コンソールの Assistive Auto-Gain 機能を使用すると、ゲインレベルを自動設定できます。

(5) 48V ファンタム電源ボタン

このボタンを押すと、選択した XLR マイク入力または入力ペアの 48V ファンタム電源のオン/オフを切り替えます。ファンタム電源のオン/オフ中は LED が赤色で短時間点滅します。ファンタム電源が有効な場合は LED が赤色で点灯します。

ファンタム電源はほとんどのコンデンサーマイクで必要ですが、ダイナミックマイクやリボンマイクでは通常不要です（ファンタム電源は一部のリボンマイクを損傷する可能性があります）。

注：マイクを接続または取り外す前に、ファンタム電源を無効にしてください。

ファンタム電源については、[こちら](#)の動画でご確認いただけます。

(6) 極性ボタン

このボタンを押すと、選択した入力または入力ペアの極性（位相）が反転します。極性が反転すると、極性ボタンがオレンジ色に点灯します。極性反転は、複数のマイクを使用して単一のソースを録音する場合に、位相の打ち消しを軽減するのに役立ちます。

(7) インストゥルメントボタン (INST)

このボタンを押すと、入力 1 または 2 のインピーダンスとゲインが切り替わり、エレキギターやベースなどの Hi-Z 楽器に対応します。Hi-Z 入力が有効な場合、このボタンは緑色に点灯します。

注：INST ボタンがオンの場合、48V ファンタム電源は無効になります（1/4 インチジャックではファンタム電源は使用できません）。

ヒント：一般的に、キーボードやサウンドモジュールなどのラインレベルソースを接続する場合は、ゲインを上げる必要がない限り、INST ボタンをオフにしてください。

(8) Vintage ボタン

このボタンを押すと、選択したプリアンプチャンネルの Vintage モードが切り替わります。Vintage 設定は、マイク、ライン、楽器入力で使用できます。Vintage モードが有効な場合、ボタンはオレンジ色に点灯します。

Vintage は、Universal Audio のオールチューブ 610 コンソールプリアンプにインスパイアされた、精巧に作り込まれたアナログチューブプリアンプのエミュレーションを追加し、より豊かなサウンドを実現します。

Vintage プリアンプモードについては、[こちら](#)の動画でご確認いただけます。

(9) 76 コンプレッサーボタン

このボタンを押すと、選択したチャンネルまたはペアの 76 コンプレッサーがオンになります。76 タイプのコンプレッサーは、マイク、ライン、楽器入力に使用できます。オンの時、このボタンはオレンジ色に点灯します。

76 コンプレッサーは、UA の象徴的な 1176 リミッティングアンプをベースとしたアナログコンプレッサーで、ボーカルやギターなどに明瞭さとパンチを加えることができます。

ボタンを繰り返し押すと、プリセット (VOC、GTR、FAST) が切り替わり、やがて回路がオフになります。

注: コンプレッサーがオンの時は入力レベルが上昇するため、ゲインを下げることをおすすめします。

(10) 76 コンプレッサープリセット

76 コンプレッサーボタンの上にあるインジケータは、プリセットごとにコンプレッサーがオフ (LED 消灯) かオンかを示します。76 コンプレッサープリセットには以下の特性があります。

FAST: 非常に速いアタックと中程度のリリースで、アグレッシブなコンプレッションを実現します。

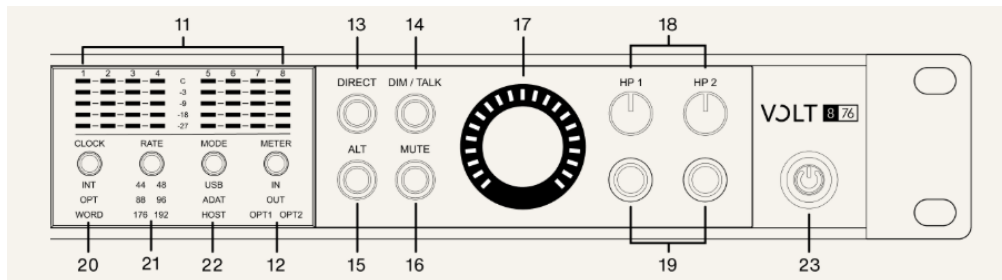
GTR: 遅いアタックと比較的速いリリースで、ギター/ベースのトランジェントを高めます。

VOC: 速いアタックと遅いリリースで、クラシックでスムーズなボーカルコンプレッションを実現します。

ヒント: これらのプリセットは特定のソースでの使用を想定して設計されていますが、どの設定でもソースを問わず使用できます。76 コンプレッサーを自由にクリエイティブに活用してください。

76 コンプレッサーの使い方については、[こちら](#)の動画でご確認いただけます。

Volt 876 フロントパネルの説明（右側面）



(11) レベルメーター

メーター表示には、選択したメーターモードのレベルが表示されます。メーターボタン（12）を押すと、メーターモードを変更できます。メーターの表示レベルは、以下の表のとおりです。

メーターラベルと信号レベル、そして LED の色は次のとおりです。

-27: -38 dB ~ -27 dB = 緑

-18: -27 dB ~ -9 dB = 緑

-9: -9 dB ~ -3 dB = 緑

-3: -3 dB ~ 0 dB = 黄

C: 0 dBFS 以上（デジタルクリッピング）= 赤

(12) メータースイッチ

このスイッチで、使用可能なメーターモードを切り替えます。

メータースイッチの LED とメーター表示は次のとおりです。

IN: アナログ入力 1~8

OUT: アナログ出力 1~8

OPT 1 + IN: オプティカル入力 1~8

OPT 1 + OUT: オプティカル 1~8

OPT 2 + IN: オプティカル入力 9~16

OPT 2 + OUT: オプティカル出力 9~16

(13) ダイレクトモニタリングボタン

このボタンを押すと、チャンネルまたはチャンネルペアのダイレクトモニタリングが有効になりま

す。ボタンが緑色に点灯しているときはダイレクトモニタリングがオン、ボタンが消灯しているときはオフになります。

重要:ダイレクトモニタリングは入力信号にのみ適用されます。この設定に関わらず、コンピューターまたはオーディオソフトウェアからのオーディオは常に聞こえます。

ボタンが緑色に点灯しているときは、選択された入力が UAD コンソールのミキサー、またはステレオ出力 (UAD コンソールを使用していないとき) を介して直接モニタリングされています。

チャンネルでダイレクトモニタリングを有効にすると、UAD コンソールでそのチャンネルのミュートが解除されます。チャンネルがダイレクトモニタリングされていない場合は、UAD コンソールでそのチャンネルがミュートされます。

ヒント: UAD コンソールのミュートボタンでもダイレクトモニタリングのオン/オフを切り替えることができます。

ダイレクトモニタリングに関する注意事項

ダイレクトモニタリングをオンにしている場合は、オーディオソフトウェアのソフトウェアモニタリング機能を無効にしてください。信号の重複を防ぐため、入力音が薄くなったり位相がずれたりすることがあります。この機能を有効にすると、UAD コンソールでダイレクトモニタリングのレベル、パン、Cue センドをコントロールできます。詳しくは、Volt 876 用 UAD コンソールのマニュアルをご覧ください。

ダイレクトモニタリングをオフにすると、DAW によるバッファリングと信号処理の影響で、入力が聞こえるまでにレイテンシー (わずかな遅延) が発生することがあります。

注: UAD コンソールで 1 つまたは複数のチャンネルをソロにすると、他のチャンネルのダイレクトモニタリング信号は聞こえなくなります。

ダイレクトモニタリングとは？

Volt 876 のダイレクトモニタリングを使用すると、ヘッドフォンやモニタースピーカーでレイテンシーなしで入力信号を聴くことができます。

ダイレクトモニタリングでは、オーディオソフトウェアのバッファをバイパスし、Volt 876 ハードウェアからレイテンシーなしで直接入力信号を聴くことができます。

オーディオソフトウェアのミキサー(ソフトウェアモニタリング)で入力信号をモニタリングする場合、信号はソフトウェアを通過してから Volt 876 のモニター出力とヘッドフォン出力から聞こえます。これらの信号はソフトウェアバッファを使用するため、レイテンシーが発生します。レイテンシーは、バッファサイズが大きいほど遅延が大きくなります。

ダイレクトモニタリングは、ソフトウェアでモニタリングする必要のないソースを録音する場合に使用します。例えば、ソフトウェアのエフェクトやプラグインを使用せずにボーカルや楽器を録音する場合に使用します。

(14) Dim / Talk ボタン

Dim / Talk ボタンは、内蔵トークバックマイクを起動し、モニター出力信号のレベルを 20dB 下げます(ディム)。Dim / Talk は通常、キューを介して演奏者とコミュニケーションをとる際に、コントロールルームの聴取音量を一時的に下げるために使用されます。

ボタンを素早く押して放すと、トークバックのオン/オフを切り替えることができます。トークバックとディムを一時的にオンにし、ボタンを放すとオフにするには、ボタンを 0.5 秒以上押し続けます。この機能がオンのとき、Dim / Talk ボタンは黄色に点灯します。

(15) ALT ボタン

ALT ボタンをオンにすると、メインミックスが出力 3-4 にルーティングされ、2 台目のスピーカーでモニタリングできます。

ALT が誤って有効または無効にならないように、ALT モニタリングは 2 段階の手順で有効にするようになっています。

1.ALT ボタンを、ボタンが点滅するまで(約 2 秒)押し続けます。

Volt 876 は ALT モニターモードになり、出力 3-4 にルーティングされていた信号は、それらの出力にはルーティングされなくなります。

2.ALT モニターモードの状態 で ALT ボタンを 1 回押すと、信号が ALT 出力にルーティングされます。ALT ボタンが点灯しているときは、メインミックスはモニターL/R 出力ではなく出力 3-4 にルーティングされます。ボタンが消灯している(オフになっている)ときは、メインミックスは再びモニターL/R 出力にルーティングされ、出力 3-4 には信号は送信されません。

ALT モードを終了するには、ALT ボタンをもう一度押し続け、ボタンが点滅するまで(約 2 秒間)待ちます。出力 3~4 にルーティングされていたチャンネルはすべて復元されます。

(16) ミュートボタン

ミュートボタンを押すと、出力 1-2 または出力 3-4 (ALT が有効の場合) のミュートを切り替えます。信号がミュートされている間、ボタンは赤く点灯します。

(17) モニターレベルノブ

このノブを回すと、モニター出力に接続されたスピーカーの音量を調整できます。ノブの周りのリング LED は、モニター音量の設定を示します。

(18) ヘッドフォンボリュームノブ

これらのノブでヘッドフォン出力 (19) の音量を調整します。ヘッドフォンボリュームコントロールはモニターボリュームコントロールとは独立しています。

注: モニター出力とヘッドフォン信号はデフォルトでは同じですが、UAD コンソールでヘッドフォン出力を独立したキューミックスとして聞くように設定できます。

(19) ヘッドフォン出力

ステレオヘッドフォンをこれらの出力に接続します。ヘッドフォンは 1/4 インチ (6.35 mm) TRS プラグで接続します。1/8 インチ (3.5 mm) プラグのヘッドフォンをご使用の場合は、TRS 1/8 インチ - 1/4 インチアダプターを使用してください。

(20) CLOCK ボタン (ADAT モードのみ)

ADAT モード時のみ、CLOCK ボタンを押すとクロックソースが内部クロック (INT)、ADAT オプティカル (OPT)、BNC ワードクロック (WORD) に切り替わります。ADAT モード以外の場合は、UAD コンソールでクロックソースを調整できます。選択されたクロックソースのラベルは黄色に点灯します。選択されたクロックソースが解決されていない場合は、ラベルが点滅します。

利用可能なクロックソースの種類によって、クロックソースは以下のように自動的に切り替わります。

- ・デフォルトのクロックソースは INT です。
- ・有効なオプティカル (ADAT または S/PDIF) クロックが検出されると、クロックソースは OPT に切り替わります。
- ・有効な BNC ワードクロックが検出されると、クロックソースは WORD に切り替わります。
- ・BNC ワードクロックと S/PDIF または ADAT オプティカルクロックの両方が検出されると、クロックソースは OPT に切り替わります。

(21) RATE ボタン (ADAT モードのみ)

このボタンで利用可能なサンプルレートを切り替えます。ADAT モード以外の場合は、UAD コンソールでサンプルレートを調整できます。現在選択されているサンプルレートは、ラベルが黄色に点灯していることを示します。サンプルレートインジケータには小数点以下は表示されません。例えば、44.1 は 44 と表示されます。

利用可能なサンプルレート:

- ・44.1 kHz
- ・48 kHz
- ・88.2 kHz
- ・96 kHz
- ・176.4 kHz
- ・192 kHz

(22) MODE ボタン

USB モードは標準的なオーディオインターフェースモードで、最大 24 チャンネルのアナログおよびデジタル入力をインターフェースにルーティングできます。ADAT モードでは、本機はスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D-D/A コンバーターとして、または ADAT 拡張システムでの使用向けに再構成されます。

注: アクティブなモードを変更すると、入出力が完全に再構成されます。誤ってモードが変更されるのを防ぐため、モードの切り替えは以下の 3 つの手順で行います。

- 1.MODE ボタンを 2 秒間押し続け、インジケータが点滅するまで押し続けます。
- 2.このボタンを短く押すと、利用可能なモードが順に切り替わります。

3.使用したいモードになったら、インジケーターが点滅しなくなるまでもう一度ボタンを長押しします。

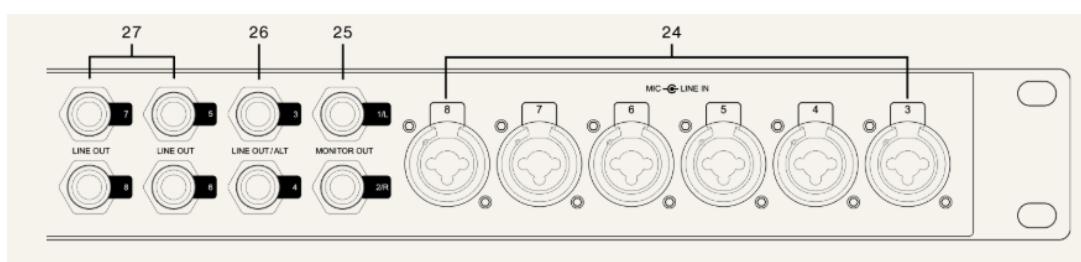
ホストコンピューターとの USB 接続がアクティブな場合、モードに関係なく、HOST インジケーター LED が黄色に点灯します。

この機能の詳細については、以降で説明する[モード](#)を参照してください。

(23) 電源ボタン

このボタンで Volt に AC 電源を供給します。

Volt 876 背面パネルの説明 (右側)



(24) XLR/TRS コンボ入力 3～8

マイクまたはラインレベルの音源を接続します。コンボ入力コネクタは XLR および 1/4 インチ (6.35 mm) プラグに対応しています。これらの入力はフロントパネルの入力 1～2 と同様に機能しますが、Hi-Z インストゥルメントボタン (INST) はこれらの入力には適用されません。

これらの接続については、「(2) XLR/TRS コンボ入力 1～2」を参照してください。

ライン出力 1～8 について

出力 1～8 は、他のオーディオ機器の入力に接続できる 1/4 インチ (6.35mm) ジャックです。これらの出力には、TS (チップスリーブ) または TRS (チップリングスリーブ) ケーブルを使用できます。

DAW ソフトウェアを使用して、これらの出力に信号をルーティングできます。デフォルトでは、DAW はメインのステレオモニターミックスを出力 1/L と 2/R に送信します。

注: モニター1-2 および ALT 3-4 出力の信号はラインレベルで、電源は供給されません。これらの出力は、パワードスピーカーまたはスピーカー付きアンプに接続してください。

バランス接続とアンバランス接続

Volt 876 のすべてのライン出力は、TRS または XLR ケーブルでバランス機器に接続する場合はバランス接続です。TS ケーブルで接続した場合、またはアンバランス機器に接続する場合は、すべてのライン出力はアンバランス接続です。

バランス音源で最良の結果を得るには、TRS (バランス) オーディオケーブルを使用してください。バランス機器は 3 芯配線 (TRS または XLR コネクタ経由) により、干渉や電気ノイズを低減し、長距離ケーブルでも優れた音質を実現します。エレキギターやベース、アンバランスキーボードなど、バランス接続ではない楽器には、TS (アンバランス) ケーブルを使用してください。また、電気干渉ノイズが問題にならない短いケーブルにも TS 接続は適しています。

(25) モニター出力 1-2

ステレオスピーカーシステムをモニター出力に接続します。左スピーカーをモニター 1/L に、右スピーカーをモニター 2/R に接続します。ALT ボタンが押されていないときは、メインミックス出力がこれらのスピーカーにルーティングされます。

注: Volt 876 ハードウェアにはモノラルスイッチがありません。UAD コンソールのモノラルスイッチが押された状態で Volt 876 をホストコンピューターから切断した場合、Volt 876 をホストコンピューターに再接続し、UAD コンソールでこの設定を解除するまで、モニター出力はモノラルのままです。

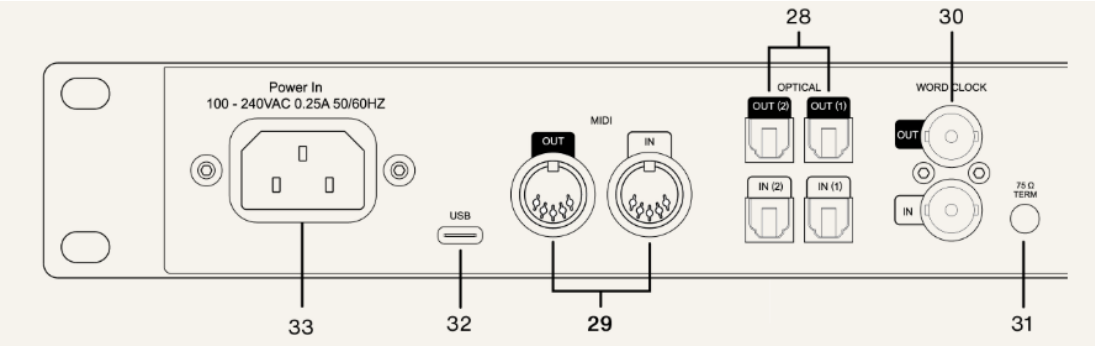
(26) ライン出力 3-4 / ALT 出力

ALT モニタリングが有効で、ALT ボタンが押されているときは、代替モニタリングスピーカーを接続し、ステレオモニター出力をこれらのスピーカーに送ることができます。左の代替スピーカーを 3 に、右の代替スピーカーを 4 に接続します。

(27) ライン出力 5~8

ライン出力 5~8 は、メインまたは代替モニタリングには使用されない点を除けば、出力 1~4 と同じです。

Volt 876 背面パネルの説明 (左側)



(28) OPTICAL 入出力

これらの TOSLINK ポートは、ADAT Lightpipe Optical Interface プロトコルを使用して、他のデジタルオーディオハードウェアデバイスと相互接続します。2 つの ADAT 入力と 2 つの ADAT 出力を備え、最大 16 チャンネルの ADAT デジタルオーディオまたは 2 チャンネルの S/PDIF オーディオを出力できます。

注: Volt 876 は ADAT または S/PDIF 形式のデジタルオーディオをサポートしています。UAD コンソール設定でデジタルオーディオフォーマットを選択できます。

ADAT 形式のデジタルオーディオ

利用可能なデジタルオーディオチャンネルの概要は、以下の表をご覧ください。

オプティカルフォーマット	サンプルレート (kHz)	オプティカル入力1	オプティカル出力1	オプティカル入力2	オプティカル出力2
S/PDIF	44.1, 45	2チャンネル S/PDIF(LR)	2チャンネル S/PDIF(LR)	無効	2チャンネル S/PDIF(LR) (ミラーリング)
	88.2, 96				
	176.4, 192				
ADAT	44.1, 48	8チャンネル ADAT 1-8	8チャンネル ADAT 1-8	8チャンネル ADAT 9-16	8チャンネル ADAT 9-16
	88.2, 96 (S/MUX)	4チャンネル ADAT 1-4	4チャンネル ADAT 1-4	4チャンネル ADAT 5-8	4チャンネル ADAT 5-8
	176.4, 192 (S/MUX)	2チャンネル ADAT 1-2	2チャンネル ADAT 1-2	2チャンネル ADAT 3-4	2チャンネル ADAT 3-4

デジタルオーディオチャンネルとサンプルレート

使用可能な ADAT チャンネルは、現在のシステムサンプルレートによって異なります。

サンプルレートが 44.1 kHz と 48 kHz の場合、オリジナルの ADAT プロトコルが使用され、オプティカルポートごとに 8 つのオーディオチャンネルがルーティングされます。より高いサンプルレートでは、高解像度の転送を維持するために業界標準の ADAT S/MUX プロトコルが使用されます。

重要: 88.2 kHz 以上のサンプルレートでオプティカルポートの利用可能なすべての ADAT チャンネルを使用するには、オプティカルポート 1 と 2 の両方が他のデバイスに接続され、他のデバイスも ADAT S/MUX プロトコルをサポートしている必要があります。

ADAT 対応のオプティカルポートでは、以下の動作が適用されます。

- ・サンプルレートが 44.1 kHz および 48 kHz の場合、ポート 1 と 2 はそれぞれ 8 チャンネルのオーディオをサポートします。
- ・サンプルレートが 88.2 kHz および 96 kHz の場合、ポートごとに最大 4 チャンネルのオーディオがルーティングされます(両方のポートを使用する場合、合計 8 チャンネル)。
- ・サンプルレートが 176.4 kHz および 192 kHz の場合、ポートごとに最大 2 チャンネルのオーディオがルーティングされます(両方のポートを使用する場合、合計 4 チャンネル)。

S/PDIF 形式のデジタルオーディオ

Volt 876 は、サンプルレートが 44.1 kHz～192 kHz で 2 チャンネルのデジタル S/PDIF 入出力をサポートします。

S/PDIF モードの場合：

- ・Optical IN 1 が有効になります (UAD コンソールの S/PDIF 1-2)。」
- ・Optical IN 2 が無効になります。
- ・Optical OUT 1 と OUT 2 がアクティブで、S/PDIF 信号が両方の出力ポート (UAD コンソールの S/PDIF 1-2) に複製されます

(29) MIDI 入出力

標準の 5 ピン MIDI DIN ケーブルを使用して、MIDI デバイスを Volt 876 に接続できます。デバイスの MIDI OUT を Volt 876 の MIDI IN に接続し、デバイスの MIDI IN を Volt 876 の MIDI OUT に接続します。

両方の接続を行う必要はありません。例えば、MIDI コントローラーを Volt 876 の MIDI IN にのみ接続し、MIDI サウンドモジュールを Volt 876 の MIDI OUT にのみ接続する場合があります。

す。

ヒント: Volt 876 が ADAT モードで、USB 経由でコンピューターに接続されている場合でも、MIDI 入出力は機能します。

(30) WORD CLOCK 入出力

ワードクロック入力

Volt 876 の内部クロックは、外部ワードクロックに同期させることができます。クロックソースを Word に設定するには、フロントパネルまたは UAD コンソールから外部ワードクロックの BNC コネクタを Volt 876 のワードクロック入力に接続し、外部デバイス側でワードクロックを送信するように設定します。

Volt 876 が外部ワードクロックをクロックソースとして使用する場合、Volt 876 はワードクロックフォロワーとなります。

注意

重要: Volt 876 のサンプルレートは、入力クロックのサンプルレートと一致するように手動で設定する必要があります。

Volt 876 がクロックチェーンの最終デバイスである場合は、ターミネーションスイッチ (31) をオンにしてください。

Volt 876 は外部の「1 倍」クロック信号にのみ同期できます。スーパークロック、オーバークロック、サブクロックは使用できません。

WORD CLOCK 出力

この BNC コネクタは、どのクロックモードでも標準 (1 倍) ワードクロックを送信します。このポートから送信されるクロックレートは、UAD コンソールで指定された現在のシステムサンプルレートと一致します。

ワードクロックモードでは、ワードクロック出力はワードクロック入力とミラーリングされます。

(31) 75 Ω ワードクロックターミネーション(終端)スイッチ

このスイッチは、必要に応じてワードクロック入力信号を 75 Ω で終端します。ワードクロック終端は、スイッチが押されている (押し込まれている) 時に有効になります。Volt 876 のターミネーションスイッチは、Volt 876 が外部ワードクロックに同期するように設定され、ワードクロックケーブル

の受信端の最終デバイスである場合にのみ有効にしてください。例えば、Volt 876 がクロックチェーンの最終フォロワーユニットである場合 (Volt 876 のワードクロック出力ポートが使用されていない場合)、ターミネーションを有効にする必要があります。

(32) USB-C

付属の USB-C ケーブルを使用して、Volt 876 をコンピューターの USB 2.0 (またはそれ以上) ポートに接続します。コンピューターのポートは USB-C または USB-A のいずれでも使用でき、USB 2.0 以上のデータケーブルであればどれでも使用できます。

iOS および iPad デバイスの場合、Volt 876 を USB-C ケーブル (USB-C ポート搭載デバイス) または Apple Lightning - USB カメラアダプタ (Lightning ポート搭載デバイス) で接続してください。

(33) IEC 電源入力

付属の IEC 電源コードをここに接続します。前面パネルの電源スイッチで電源のオン/オフを切り替えます。

モード

Volt 876 は、Volt 876 モードハードウェアボタン (22) または UAD コンソールから USB インターフェースモードと ADAT モードを切り替えることができます。この 2 つのモードは、Volt 876 の入出力構成が全く異なります。USB モードは標準的なオーディオインターフェースモードで、最大 24 チャンネルのアナログおよびデジタル入力をインターフェース経由でルーティングできます。ADAT モードでは、ユニットがスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D・D/A コンバーターとして再構成されるか、ADAT 拡張システムでの使用が可能になります。

アクティブな MIDI ポート

USB 接続された Volt 876 では、MIDI ポートは常にアクティブです。これは、USB モードと ADAT モードの両方、そしてどのような構成であっても当てはまります。

注: macOS では、Volt 876 は USB モードと ADAT モードのどちらであるかによって、2 つの異なる MIDI デバイスとして表示されます。Audio MIDI 設定でデバイスを設定する際は、現在アクティブな Volt 876 デバイスを使用してください。Audio MIDI 設定でデバイスを区別するには、各 Volt 876 MIDI デバイスをダブルクリックし、それぞれに固有の名前を付けてください。

USB モード

USB モードは Volt 876 のデフォルト設定です。USB モードでは、アナログ入力とデジタル出力はリンク解除され、UAD コンソールや DAW を使用して個別にルーティングできます。USB モードは、ADAT 拡張システムのコントロールユニットのモードでもあります。

サンプルレート (kHz)	アナログ入出力	ADAT デジタル入出力
44.1, 48	8X8	16X16
88.2, 96	8X8	8X8
176.4, 192	8X8	4X4

ADAT モード

ADAT モードには 2 つの状態があります。

1.ADAT スタンドアロンモード

2.ADAT 拡張モード

ADAT スタンドアロンモード

ADAT スタンドアロンモードは、Volt 876 を ADAT モードに切り替えたときのデフォルトモードです。このモードでは、以下ようになります。

- ・Volt 876 はスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D-D/A コンバーターとして機能します。
- ・アナログ入力 1～8 は、対応する ADAT 出力 1～8 に直接ルーティングされます。
- ・ADAT 入力 1～8 は、対応するアナログ出力 1～8 に直接ルーティングされます。
- ・オーディオはコンピューターにルーティングされません (UAD コンソールにオーディオは表示されません)。
- ・Volt 876 は Core Audio または ASIO デバイスとして表示されません。
- ・ループバックは無効です。

ADAT スタンドアロンモード(コンピューターコントロール付き)

ADAT スタンドアロンモードでは、Volt 876 を USB 経由でコンピューターに接続すると、UAD コンソールから以下の設定をコントロールできます。

- ・プリアンプ設定
- ・サンプルレート
- ・クロックソース
- ・USB または ADAT モード

ADAT 拡張モード

ADAT モードでは、Volt 876 をエキスパンダーユニットとして設定できます。このモードでは、2 台または 3 台の Volt 876 を組み合わせて、UAD コンソールから最大 24 系統のプリアンプ入力をコントロールできます。詳細については、[複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張](#)をご覧ください。

複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張

Volt 876 システムを 2 台または 3 台の Volt 876 インターフェースで拡張し、16 または 24 チャンネルのアナログ入力 (44.1 kHz および 48 kHz) を装備できます。この構成では、1 台の Volt 876 を USB インターフェースユニットとして設定し、残りの Volt 876 を ADAT エクスパンダーユニットとして設定します。

重要: ADAT 拡張モードを使用するには、2 台以上の Volt 876 をコンピューターに接続し、オプティカルケーブルで相互に接続する必要があります。ADAT 拡張モードを使用するには、UAD Console アプリも必要です。ADAT 拡張モードは、Volt 876 のハードウェアボタンでは設定できません。

この構成では、ADAT エクスパンダーユニットの ADAT 出力が USB インターフェースユニットの ADAT 入力に接続され、その逆も同様です。

また、各 Volt 876 はそれぞれ USB 経由でホストコンピューターに接続する必要があります。UAD コンソール内で ADAT エクスパンダーユニットのすべてのアナログプリアンプ設定をコントロールでき、エクスパンダーユニットからのすべてのオーディオは UAD コンソールのモニターおよびキューミックスで利用できます。

注意: フィードバックを防ぐため、デバイスを USB モードと ADAT モードの間で切り替える前に、すべてのマイクがミュートされていることを確認してください。

ADAT 拡張とサンプルレート

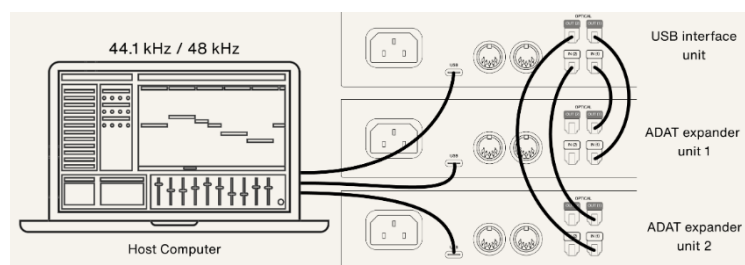
48kHz を超えるサンプルレートの場合、拡張チャンネルの最大数は 8 で、拡張ユニットは 1 台のみサポートされます。

サンプルレート (kHz)	使用可能な プリアンプチャンネル	拡張ユニット数
44.1, 48	8 (拡張ユニット: 1) 16 (拡張ユニット: 2)	1または2
88.2, 96	8	1
176.4, 192	4	2

Volt 876 ハードウェアの ADAT 拡張用ケーブル接続(44.1kHz/48 kHz)

- 1.すべての Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオフにします。
- 2.下の図と表に示すように、ADAT エクスパンダーユニットをオプティカルケーブルで USB インターフェイスユニットに接続します。
- 3.USB インターフェイスユニットと ADAT エクスパンダーユニットを USB 経由でコンピューターに接続します。これらの接続には USB ハブを使用できます。
- 4.接続が完了したら、Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオンにします。

Volt 876 ADAT 拡張用のオプティカルおよび USB 接続 (44.1 kHz / 48 kHz)



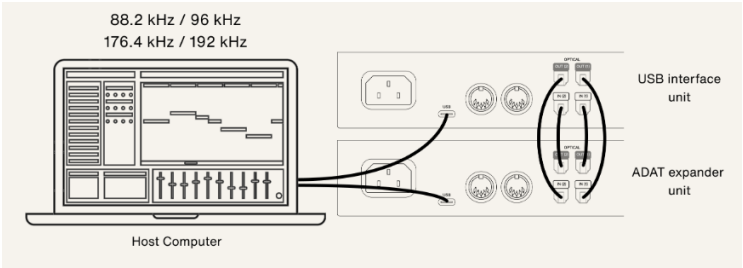
USVインターフェイスユニット	ADAT拡張ユニット1	ADAT拡張ユニット2
オプティカル入力1	オプティカル出力1	
オプティカル入力2		オプティカル出力1
オプティカル出力1	オプティカル入力1	
オプティカル出力2		オプティカル入力1

ADAT 拡張用 Volt 876 ハードウェアのケーブル接続(88.2 kHz - 192 kHz)

- 1.すべての Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオフにします。

- 2.下の図と表に示すように、ADAT エクスパンダーユニットをオプティカルケーブルで USB インターフェイスユニットに接続します。
- 3.USB インターフェイスユニットと ADAT エクスパンダーユニットを USB 経由でコンピューターに接続します。これらの接続には USB ハブを使用できます。
- 4.接続が完了したら、Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオンにします。

Volt 876 ADAT 拡張用のオプティカルと USB 接続（88.2 kHz - 192 kHz）



USVインターフェースユニット	ADAT拡張ユニット1
オプティカル入力1	オプティカル出力1
オプティカル入力2	オプティカル出力2
オプティカル出力1	オプティカル入力1
オプティカル出力2	オプティカル入力2

Volt 876 のトラブルシューティング

○電源が入らない

- ・IEC 電源ケーブルが接続され、壁のコンセントに電源が供給されていることを確認してください。

Volt 876 は USB バスパワーで動作しません。

- ・電源スイッチがオンになっていることを確認してください。

○コンピュータがユニットを認識しない

- ・Volt 876 の電源をオフにしてから、再度オンにしてください。
- ・別の USB ポートまたは USB ハブを試してください。
- ・別の USB データケーブルを試してください。
- ・コンピュータと Volt 876 の電源をオフにし、再起動してください。

○音が出ない

- ・モニタリングシステムの接続、電源、音量を確認してください。
- ・Volt のモニターレベルが上がっていることを確認してください。
- ・UAD コンソールでモニター出力がミュートされていないことを確認してください。
- ・モニター LED が点灯していることを確認してください(信号フローを確認してください)。
- ・モニターソースがモニターに設定されているか、キューミックスに設定されている場合は、オーディオがキューミックスにルーティングされていることを確認してください。

○プリアンプ入力からオーディオが出ない

- ・チャンネルの Direct ボタンが有効になっていることを確認してください(UAD コンソールでチャンネルがミュートされていないことを確認してください)。
- ・ケーブル接続を確認してください。
- ・ファンタム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用している場合は、そのチャンネルのファンタム電源が有効になっていることを確認してください。
- ・チャンネルのプリアンプゲインが上がっていることを確認してください。

○Direct ボタンを押しても音が出ない

- ・UAD コンソールでチャンネルがソロになっていないことを確認してください(Volt 876 ハードウェアにはソロインジケータはありません)。
- ・ヘッドフォンが正しく接続され、ヘッドフォンレベルが上がっていることを確認してください。
- ・ヘッドフォンがキューミックスに割り当てられている場合は、UAD コンソールでそのチャンネルの Cue レベルが上がっていることを確認してください。

○プリアンプのコントロールがチャンネルに影響しません。

- ・チャンネル選択ボタンで正しい入力を選択されていることを確認してください。
- DAW で位相がずれている、音が細い、またはエコーがかかっている
- ・チャンネルを直接モニタリングしながら DAW の入力チャンネルも同時にモニタリングすると、位相がずれたりエコーがかかったりすることがあります。
 - ・Volt ハードウェア / UAD コンソールで直接モニタリングする場合は、DAW で該当チャンネルをミュートするか、ソフトウェアによる入力モニタリングを無効にしてください。
 - ・DAW でソフトウェアによるオーディオモニタリングを行う場合は、該当チャンネルのダイレクトモニタリングを無効にするか、UAD コンソールで該当チャンネルをミュートしてください。
- オーディオの割れ、ドロップアウト、グリッチが発生する
- ・コンピューターのソフトウェアでバッファサイズの設定を大きくしてください。録音時にダイレクトモニタリングを使用すると、バッファサイズを大きくしてもレイテンシーなく録音できます。
- (PC) ASIO ドライバーが DAW で利用できません
- ・UA Connect アプリで Volt ハードウェアドライバーをインストールしてください。

Volt 876 を工場出荷時のデフォルト設定にリセットする

Volt 876 を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには：

- 1.Volt 876 ハードウェアの電源をオフにします。
- 2.INST 1/2 ボタンと極性ボタンを押したまま、Volt 876 の電源を入れます。
- 3.チャンネル選択ボタンの LED が 4 回点滅するまで INST 1/2 ボタンと極性ボタンを押し続け、点滅したらボタンを放します。

Volt 876 は工場出荷時のデフォルト設定で再起動します。

Volt 876 仕様

注記

- ・モニター、ヘッドフォン、ライン出力はすべて DC 結合です。
- ・入力はすべて AC 結合です。
- ・仕様は予告なく変更される場合があります。

■システム

●入出力構成

- ・マイク/ライン/楽器プリアンプ入力: XLR/TRS コンボ×2
- ・マイク/ラインプリアンプ入力: XLR/TRS コンボ×6
- ・ライン出力: 8 (モニター出力を含む)
- ・モニター出力 (MON または ALT を選択可能) ライン出力 1-2 または 3-4
- ・ヘッドフォン出力: ステレオ×2
- ・USB: USB 2.0 ポート×1 (USB Type-C コネクタ)
- ・MIDI 入出力: 5 ピンメス DIN コネクタ×2

●A/D - D/A 変換

- ・対応サンプルレート (kHz): 44.1、48、88.2、96、176.4、192
- ・サンプルあたりのビットデプス: 32
- ・同時 A/D 変換: 8 チャンネル
- ・同時 D/A 変換: 12 チャンネル (メイン×8、ステレオヘッドフォン×2)

■アナログ入出力

●マイク、ライン、インストゥルメント入力

- ・ゲイン調整可能値: 60 dB
- ・ビンテージモード: チャンネルごとにオン/オフ選択可能:
- ・76 コンプレッサープリセット: チャンネルごとに選択可能 (VOC、GTR、FAST、OFF)
- ・76 コンプレッサープリセット時間: (アタックとリリース時間は概算です)

VOC: アタック 2 ms / リリース 300 ms

GTR: アタック 1.5 ms / リリース 700 ms

FAST: アタック 30 μ s / リリース 35 ms

圧縮比=6:1

●マイク入力

- ・周波数特性: 20 Hz～20 kHz、 ± 0.1 dB
- ・ダイナミックレンジ(A 特性): 116 dB
- ・全高調波歪率(+) + ノイズ (1 kHz @ -1 dBFS): 110 dB (0.0003 %)
- ・最大入力レベル : 14 dBu
- ・入力インピーダンス: 2 k Ω
- ・ファンタム電源: +48V (チャンネルごとに切り替え可能)
- ・コネクタタイプ: XLR メス、ピン 2 (プラス)

●インストゥルメント入力

- ・周波数特性: 20Hz～20kHz、 ± 0.03 dB
- ・ダイナミックレンジ(A 特性): 116dB
- ・全高調波歪率(THD) + ノイズ (1kHz @ -1dBFS): -87dB (0.004%)
- ・最大入力レベル: 12.5dBu
- ・入力インピーダンス: 1M Ω
- ・コネクタタイプ: 1/4 インチ TS アンバランス

●ライン入力

- ・周波数特性: 20Hz～20kHz、 ± 0.05 dB
- ・ダイナミックレンジ(A 特性): 116dB
- ・全高調波歪率(THD) + ノイズ (1kHz @ -1dBFS): -108dB (0.0004%)
- ・最大入力レベル: 22dBu
- ・入力インピーダンス: 10K Ω
- ・コネクタタイプ: 1/4 インチ TRS バランスまたは TS アンバランス

●モニター & ライン出力 (DC 結合)

- ・周波数特性: 20Hz～20kHz、 ± 0.1 dB
- ・ダイナミックレンジ(A ウェイト): 119dB
- ・全高調波歪率(THD) + ノイズ (1kHz @ -1dBFS): -111dB (0.0002%)
- ・最大出力レベル: 20.2dBu
- ・出力インピーダンス: 100 Ω
- ・コネクタタイプ: 1/4 インチ TRS バランスまたは TS アンバランス
- ・モニター出力 (ライン出力 3、4 に切り替え可能)

●ステレオヘッドホン出力 (DC 結合)

- ・周波数特性: 20Hz～20kHz、 ± 0.2 dB
- ・ダイナミックレンジ (300 Ω 、A ウェイト): 116dB
- ・THD + ノイズ (1kHz @ -1dBFS、300 Ω): -108dB (0.0004 %)

- ・最大出力 (32 Ω 負荷時) : 225 mW/チャンネル
- ・最大出力 (300 Ω 負荷時) : 65 mW/チャンネル
- ・最大出力 (600 Ω 負荷時) : 35 mW/チャンネル
- ・コネクタタイプ : ¼ インチ TRS ステレオ

■ デジタル入出力

● S/PDIF

- ・コネクタタイプ : オプティカル TOSLINK JIS F05 (ADAT 1 と共用)
- ・フォーマット : IEC 958
- ・対応サンプルレート (kHz) : 44.1、48、88.2、96、176.4、192

● ADAT

- ・コネクタタイプ : オプティカル TOSLINK JIS F05 (2 入力 2 出力)
- ・フォーマット : ADAT デジタルライトパイプ (S/MUX 付き)
- ・対応サンプルレート (kHz) : 44.1、48、88.2、96、176.4、192
- ・チャンネル割り当て (44.1 kHz、48 kHz 時) ポート 1 = チャンネル 1～8、ポート 2 = チャンネル 9～16
- ・チャンネル割り当て (88.2 kHz、96 kHz 時) ポート 1 = チャンネル 1～4、ポート 2 = チャンネル 5～8
- ・チャンネル割り当て (176.4 kHz、192 kHz 時) ポート 1 = チャンネル 1～2、ポート 2 = チャンネル 3～4

● ワードクロック

- ・コネクタタイプ : BNC
- ・ワードクロック入力終端 : 75 Ω (切り替え可能)
- ・同期ソース : 内部、ワードクロック、ADAT、S/PDIF

■ 電源

AC 入力コネクタタイプ : IEC C14 オス
 AC 要件 : 100V～240V AC、50～60 Hz
 消費電力 : 最大 35 W

■ 環境仕様

- ・周囲温度範囲 : 32～104° C 0° ～40° C

■ 機械仕様

- ・寸法

シャーシ (ノブを含む)

幅×奥行き×高さ (1RU)

43.2 × 33.3 × 4.32 cm (17×13.1×1.7 インチ)

・梱包箱

幅×奥行き×高さ

54.6×43.2×14.0 cm (21.5×17×5.5 インチ)

・重量

梱包重量(梱包箱および付属品を含む) 6.44 kg (14.2 ポンド)

重量(本体のみ) 4.08 kg (9.0 ポンド)

■ パッケージ内容

- ・Volt 876 USB オーディオインターフェース
- ・AC 電源ケーブル (IEC、地域限定)
- ・1.5m USB ケーブル (Type-C-Type-C、Type-C-Type-A 変換アダプター付属)
- ・取り付け可能な 19 インチラックマウント金具 2 個 (M3 x 10 mm なべ頭プラスネジ 6 本付属)
- ・取り付け可能なゴム足 4 個 (M3 x 5 mm なべ頭プラスネジ 4 本付属)
- ・スタートガイド URL カード
- ・重要な安全上のご注意
- ・エンドユーザー使用許諾契約

Volt 876 USB ドライバーチャンネル

Volt 876 ドライバーチャンネル - 44.1 kHz および 48kHz

Input	Name	Output	Name
Input 1	MIC/LINE/Hi-Z 1	Output 1	MON L
Input 2	MIC/LINE/Hi-Z 2	Output 2	MON R
Input 3	MIC/LINE 3	Output 3	LINE 3
Input 4	MIC/LINE 4	Output 4	LINE 4
Input 5	MIC/LINE 5	Output 5	LINE 5
Input 6	MIC/LINE 6	Output 6	LINE 6
Input 7	MIC/LINE 7	Output 7	LINE 7
Input 8	MIC/LINE 8	Output 8	LINE 8
Input 9	S/PDIF L	Output 9	S/PDIF L
Input 10	S/PDIF R	Output 10	S/PDIF R
Input 11	ADAT 1	Output 11	ADAT 1
Input 12	ADAT 2	Output 12	ADAT 2
Input 13	ADAT 3	Output 13	ADAT 3
Input 14	ADAT 4	Output 14	ADAT 4
Input 15	ADAT 5	Output 15	ADAT 5
Input 16	ADAT 6	Output 16	ADAT 6
Input 17	ADAT 7	Output 17	ADAT 7
Input 18	ADAT 8	Output 18	ADAT 8
Input 19	ADAT 9	Output 19	ADAT 9
Input 20	ADAT 10	Output 20	ADAT 10
Input 21	ADAT 11	Output 21	ADAT 11
Input 22	ADAT 12	Output 22	ADAT 12
Input 23	ADAT 13	Output 23	ADAT 13
Input 24	ADAT 14	Output 24	ADAT 14
Input 25	ADAT 15	Output 25	ADAT 15
Input 26	ADAT 16	Output 26	ADAT 16
Input 27	LOOPBACK L	Output 27	LOOPBACK L
Input 28	LOOPBACK R	Output 28	LOOPBACK R
Input 29	MONITOR L	Output 29	CUE1 L
Input 30	MONITOR R	Output 30	CUE1 R
Input 31	TALKBACK 1	Output 31	CUE2 L
Input 32	TALKBACK 2	Output 32	CUE2 R

Volt 876 ドライバーチャンネル – 88.21kHz および 96kHz

Input	Name	Output	Name
Input 1	MIC/LINE/Hi-Z 1	Output 1	MON L
Input 2	MIC/LINE/Hi-Z 2	Output 2	MON R
Input 3	MIC/LINE 3	Output 3	LINE 3
Input 4	MIC/LINE 4	Output 4	LINE 4
Input 5	MIC/LINE 5	Output 5	LINE 5
Input 6	MIC/LINE 6	Output 6	LINE 6
Input 7	MIC/LINE 7	Output 7	LINE 7
Input 8	MIC/LINE 8	Output 8	LINE 8
Input 9	S/PDIF L	Output 9	S/PDIF L
Input 10	S/PDIF R	Output 10	S/PDIF R
Input 11	ADAT 1	Output 11	ADAT 1
Input 12	ADAT 2	Output 12	ADAT 2
Input 13	ADAT 3	Output 13	ADAT 3
Input 14	ADAT 4	Output 14	ADAT 4
Input 15	ADAT 5	Output 15	ADAT 5
Input 16	ADAT 6	Output 16	ADAT 6
Input 17	ADAT 7	Output 17	ADAT 7
Input 18	ADAT 8	Output 18	ADAT 8
Input 19	LOOPBACK L	Output 19	LOOPBACK L
Input 20	LOOPBACK R	Output 20	LOOPBACK R
Input 21	MONITOR L	Output 21	CUE1 L
Input 22	MONITOR R	Output 22	CUE1 R
Input 23	TALKBACK 1	Output 23	CUE2 L
Input 24	TALKBACK 2	Output 24	CUE2 R

Volt 876 ドライバーチャンネル – 176.4kHz および 192kHz

Input	Name	Output	Name
Input 1	MIC/LINE/HI-Z 1	Output 1	MON L
Input 2	MIC/LINE/HI-Z 2	Output 2	MON R
Input 3	MIC/LINE 3	Output 3	LINE 3
Input 4	MIC/LINE 4	Output 4	LINE 4
Input 5	MIC/LINE 5	Output 5	LINE 5
Input 6	MIC/LINE 6	Output 6	LINE 6
Input 7	MIC/LINE 7	Output 7	LINE 7
Input 8	MIC/LINE 8	Output 8	LINE 8
Input 9	S/PDIF L	Output 9	S/PDIF L
Input 10	S/PDIF R	Output 10	S/PDIF R
Input 11	ADAT 1	Output 11	ADAT 1
Input 12	ADAT 2	Output 12	ADAT 2
Input 13	ADAT 3	Output 13	ADAT 3
Input 14	ADAT 4	Output 14	ADAT 4
Input 15	LOOPBACK L	Output 15	LOOPBACK L
Input 16	LOOPBACK R	Output 16	LOOPBACK R
Input 17	MONITOR L	Output 17	CUE1L
Input 18	MONITOR R	Output 18	CUE1R
Input 19	TALKBACK 1	Output 19	CUE2 L
Input 20	TALKBACK 2	Output 20	CUE2 R

重要な安全上の注意

- 1.この安全上の注意と製品の取扱説明書をよくお読みください。
 - 2.この安全上の注意と製品の取扱説明書は保管してください。製品を他者に提供する際には、必ずすべての指示を添付してください。
 - 3.すべての警告に従ってください。
 - 4.すべての指示に従ってください。
 - 5.本製品を水の近くで使用しないでください。
 - 6.本製品は、電源システムに接続されていない場合にのみ清掃してください。乾いた布でのみ清掃してください。
 - 7.通気口を塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
 - 8.ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する機器(アンプを含む)などの熱源の近くに設置しないでください。
 - 9.本製品は、電源ユニットに表示されている種類の電源でのみ動作させてください。
 - 10.電源コード、特にプラグ、コンセント、および本製品への接続部や本製品から出る部分が、踏まれたり挟まれたりしないよう保護してください。
 - 11.製造元が指定した付属品のみを使用してください。
 - 12.雷雨の際、または長期間使用しない場合は、本製品のプラグを抜いてください。
 - 13.修理は、資格のあるサービス担当者にご依頼ください。電源コードまたはプラグが破損している場合、液体が本製品にこぼれた場合、または異物が本製品内に落ちた場合、本製品が雨や湿気にさらされた場合、正常に動作しない場合、または本製品を落とした場合など、本製品が何らかの損傷を受けた場合は、修理が必要です。
 - 14.警告: 火災や感電の危険を減らすため、本製品を雨や湿気にさらさないでください。花瓶など、液体の入った物を本製品の上に置かないでください。
 - 15.本製品を AC 電源から完全に切断するには、電源コードのプラグを AC コンセントから抜いてください。
 - 16.電源コードのプラグはすぐに手の届くところに保管してください。
 - 17.製品の筐体を開けないでください。お客様が開封した製品については、保証は無効になります。
 - 18.電源を入れる前に、製品が周囲温度に達するまで待ってください。
 - 19.注意: 高信号レベルは、聴力やスピーカーに損傷を与える可能性があります。製品の電源を入れる前に、接続されているオーディオ機器の音量を下げてください。これは、ハウリングの防止にも役立ちます。
 - 20.使用目的: 本製品は屋内使用向けに設計されています。業務用としても使用できます。取扱説明書に記載されていない用途で本製品を使用した場合、不適切な使用とみなされます。
- Universal Audio は、本製品およびその付属品の不適切な使用または誤用に起因する損害につ

いて一切責任を負いません。製品を使用する前に、各国の規制を遵守してください。

エンドユーザー使用許諾契約

本ソフトウェアに関するお客様の権利は、付属のエンドユーザー使用許諾契約に準拠します。使用許諾契約のコピーは www.uaudio.com/eula でご覧いただけます。

著作権と商標

© 2025 Universal Audio, Inc. All rights reserved. 「Universal Audio」の名称、UA「ダイヤモンド」ロゴ、および「UA Volt」は、Universal Audio, Inc. の商標または登録商標です。ここに記載されているその他のすべての製品および商標は、それぞれの所有者の財産です。

ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。

免責事項

本マニュアルに記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。Universal Audio, Inc. は、本マニュアルに関して、商品性および特定目的への適合性に関する黙示の保証を含め、いかなる種類の保証もいたしません。Universal Audio, Inc. は、ここに記載されている誤り、またはこの資料の提供、実行、使用に関連する直接的、間接的、特別、偶発的、または結果的な損害について責任を負いません。